



# ご質問コーナー

## ～農家からのお問い合わせ～



平成28年に弊会に寄せられた主な質問と回答を紹介します。

### Q1

稲わら腐熟に石灰窒素を使用する場合、混ぜ込みの深さは「深い」「浅い」のどちらが良いでしょうか？

(香川県・Oさん)

#### A1

稲わら腐熟を進めるためには、石灰窒素の混ぜ込みの深さが大いに関係しますが、そのほかに気温(地温)、水分量、窒素量などが考えられます。一般的に、深すぎると酸素が入りにくいので腐熟が遅れますし、気温も徐々に下降してきますから、腐熟が進みにくくなります。腐熟というのを考えますが、根も張っていて、かなりの量になります。このようなことを考えますと、深すぎず、浅すぎず、深さ20cmを目途に混ぜ込みされるとよいでしょう。

### Q2

石灰窒素の施用から作付けまでの期間は？

(新潟県・Aさん他多数)

#### A2

このような質問は、電話でもたくさんいただいています。石灰窒素を基肥として数十kg混ぜ込み、その後タネを播いたり、苗を定植したいが何日程度おいたらよいか、ということですが、施肥時の温度(地温)と水分が分解の速さに影響します。おおよその目安は、春先の作付時は低温ですから「2週間ほど」、夏の暑い時期は「3～5日」、秋(9～10月)頃は「7日ほど」と考えて準備をしてください。石灰窒素は土と混合すると尿素に変化し、その後アンモニアの形になって根から吸収されます。石灰窒素から尿素に変化する間に殺菌・殺虫・殺草の働きをします。肥料でありながら、このような変化をするものはほかにありません。有効に活用して増収、品質向上にお役立てください。

### Q3

石灰窒素の野菜の追肥としての使い方？  
(埼玉県・Yさん)

#### A3

一般的に、石灰窒素は作付前の基肥として利用していただいているのですが、野菜の追肥や果樹の追肥としても利用できます。生育期間が比較的長期にわたる作物には、生育途中で追肥として利用できます。例として、①キュウリ、ナス、スイカなどの果菜類②キャベツ、ハクサイ、花やさい類、ネギなどの葉茎菜類③ダイコン、ゴボウ、ニンジン、サトイモなどの根菜類などかなり広く利用できます。施用量は10a当たり20～30kg、施用方法は作物の両肩に条状に施肥し、軽く土をかけるやり方です。

### Q4

石灰窒素を施用するとき、ほかの肥料と混ぜても構いませんか？

(兵庫県・Sさん)

#### A4

石灰窒素をほかの肥料と混ぜるときは次の特性に注意してください。

- ①石灰窒素は強いアルカリ性肥料なので、アンモニア性窒素を含んだ肥料と混ぜるとアンモニアの揮散がおき、また、水溶性のリン酸(例：過燐酸石灰)肥料と混ぜるとリン酸の溶け方が少なくなるので注意します。
- ②吸湿すると成分が変わるので、吸湿性の強い肥料と混ぜた場合は、直ちに施用します。

表 石灰窒素と他肥料の混合可否

配合してよいもの	熔リン、骨粉、ケイカル、炭カル、肥料用消石灰、硫酸カリ、塩化加里、珪酸加里、草木灰、魚かす、植物油かすなど有機質肥料
配合したらすぐ施すもの	過リン酸石灰など水溶性のリン酸質肥料、尿素
配合できないもの	硫安、アンモニアを含む複合肥料

# 国産石灰窒素の農薬登録内容

日本国内で生産される石灰窒素は、すべて農薬登録を取得しており、現在、「粒状石灰窒素40(粒)」「石灰窒素50(粉)」「石灰窒素55(粒)」の3剤が流通しています(数字はシアナミドの含有量を表しています)。

## ●石灰窒素 農薬登録内容(平成28年12月現在)

作物名	適用病害虫(雑草)名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰窒素を含む農薬の総使用回数
水 稲	ユリミミズ	40~60kg/10a	は種前 又は植付前	1回	散布後土壌混和	-
	ザリガニ	20~30kg/10a	植代前		散布 荒耕し後3~4cmに湛水し、3~4日後全面に散布、3~4日放置後植代を行う。 (漏水を防止すること)	
	スクミリンゴガイ		刈取後 (水温15℃以上の時期)		散布 3~4cmに湛水し、1~4日後全面に散布、3~4日放置する。 (漏水を防止すること)	
	水田一年生雑草	50~70kg/10a	は種前 又は植付前		散 布	
	ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿田)	40~50kg/10a	水稻刈取後 1週間以内		全面散布	
れんこん	スクミリンゴガイ	60~100kg/10a	植付前		散布後土壌混和 (7日以上放置後植付を行う)	
はくさい キャベツ	根こぶ病	100~200kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和	
野菜類*1 豆類(種実) いも類	センチュウ類	50~100kg/10a	は種前 又は植付前 ⚠		散布後土壌混和	
	一年生雑草	50~70kg/10a		散 布		
麦 類			は種前			
桑	カイガラムシ類 胴枯病	温湯10L当り 400~800g/10a	7月下旬~ 10月上旬		上澄液を株又は枝条の 基部に散布する。	

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰窒素を含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ*2	茎葉枯凋	10~15kg/10a	100L/10a -	茎葉黄変期	1回	茎葉散布(上澄液) 茎葉散布	-

\*1 野菜類には豆類(未成熟)が含まれます。 \*2 「石灰窒素50」粉状品のみ登録です。

### ⚠ 使用上の注意

使用面	安全面
<p>① は種又は移植に当り、暖地では3~7日前、寒地では7~10日前に施して土とよく混ぜること。</p> <p>② 農薬として使用の際は、肥料として窒素過多にならぬよう、窒素肥料全体としての使用量に注意すること。</p> <p>③ 使用量に合わせ秤量し、使いきること。</p> <p>④ 雑草防除の時は、田畑共耕起の前に施し、耕起しない田では、刈り取り後に施すこと。</p> <p>⑤ 使用するとき、他の作物にからぬように注意すること。</p> <p>⑥ 水稻のザリガニ、スクミリンゴガイ防除用途に使用する場合、湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑦ れんこんのスクミリンゴガイ防除に使用する場合、散布後土壌混和し、少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑧ ノビエ種子の休眠覚醒に使用する場合は、下記の注意を守ること。 ・稲刈り後、落下ノビエ種子が乾燥前(土壌湿潤状態中)に石灰窒素を散布すること。 ・石灰窒素の主成分シアナミドが溶解し、ノビエ種子に吸収でき得る水分を保有する圃場であること。 (稲刈り後の地下水位10~20cm地帯) ・石灰窒素によって処理されたノビエ種子が覚醒発芽し得る温度(平均温度15℃以上)を15日以上保てる気温の地帯であること。 ・4~5年連用することによって効果を確保する。</p> <p>⑨ 桑に使用する場合は、本剤を所定量の温湯に加え十分攪拌し溶解させた後、その上澄液を株又は枝条の基部に十分散布すること。 桑に使用した当日は蚕に桑葉を給餌しないこと。</p> <p>⑩ 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>	<p>① 誤飲、誤食などのないよう注意すること。 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の手当てを受けさせること。 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受けること。 (小児の手の届くところには置かない)</p> <p>② 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けること。</p> <p>③ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。</p> <p>④ 散布液調整時及び散布の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。 また、薬剤を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。</p> <p>⑤ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。</p> <p>⑥ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようし、施用した作物等との接触を避けること。</p> <p>⑦ 夏期高温時の使用を避けること。</p> <p>⑧ 散布後24時間以内は飲酒はしないこと。</p> <p>⑨ 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。</p> <p>⑩ 水産動植物(魚類・甲殻類・藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。</p> <p>⑪ 吸湿性があるため、防水に留意し、雨濡れ、浸水等の恐れのない場所に保管すること。</p> <p>⑫ 火災時は保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めること。</p> <p>⑬ 漏出時は保護具を着用し拭き取り回収すること。</p> <p>⑭ 移送取扱いはていねいに行うこと。</p>

